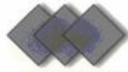


スマートシティ 会津若松

Smart City Aizuwakamatsu



会津若松市



「スマートシティ会津若松」とは？

■ ICT などを活用して、地域産業の活性化を図りながら、安心して快適に生活できる「まちづくり」を進める取組です。

本市では、ICT（情報通信技術）や環境技術などを、健康や福祉、教育、防災、さらにはエネルギー、交通、環境といった生活を取り巻く様々な分野で活用し、将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことのできるまちづくりを進めています。

こうした取組の総体が「スマートシティ会津若松」です。



人口減少の現状と「スマートシティ会津若松」

会津若松市の人口減少の現状

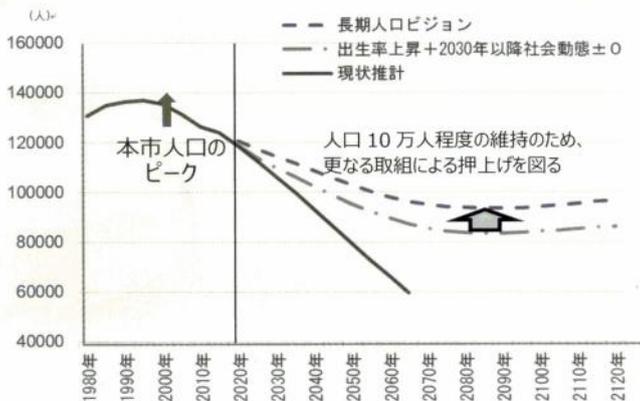
本市の人口は、1995年の約137,000人をピークに減少傾向が続いており、近年は毎年約1,000人を超えるペースで減少が続いています。こうした人口動態が今後も続けば、2040年には人口100,000人を下回り、2060年には現在の約半分となる約65,000人程度となることが予測されます。

また、この2060年の高齢化率（人口における65歳以上の方の割合）は約46%と、2020年3月現在の高齢化率である約31%を大きく上回ることが予測されます。

一方、子どもの数も減少傾向にあり、年間の出生数は2016年に900人を下回って893人、2019年は800人を下回って793人となっています。

このような人口減少と少子・超高齢化が進行する中において、その歯止めをかけていくと同時に、「住み続けることのできるまち」を創っていくことを目指して、本市ではICT関連産業の集積と生活の利便性向上を図る「スマートシティ会津若松」の取組を推進しています。

【第2期会津若松市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン】より



このままでは・・・

人口減少・少子・超高齢化が一層進行



【住み続けられるまちを目指して】

「スマートシティ会津若松」と「地方創生」の推進により、「魅力的なしごとのあるまち」や、「生活の利便性が高いまち」（安全・安心なまち）を創っていきます。



先人から受け継いだ

この地に未来のまちをつくる。「スマートシティ会津若松」

「スマートシティ会津若松」の目的

「安心して快適に生活できるまちづくり」を進めます

生活の利便性向上

スマートフォンなどで母子健康手帳の情報が見られるサービスや AI が簡易な質問に回答するサービス、自宅にいながら医師の診察を受けられるオンライン診療の取組などは、ICT を活用して生活の利便性を高めるサービスです。こうした取組を増やし、より便利で、安心して快適に生活できるまちづくりを進めていきます。



AI が簡易な質問にお答えする「LINE でチャット問い合わせサービス」

産業振興を含めた「地域活力の向上」を図ります

地域のしごとづくり

「スマートシティ AiCT」への企業誘致を図りながら、産学官が連携した取組を増やすことで、地域の雇用としごとづくりを進めます。また、ICT を活用した効率化や技術の高度化を図ることで、地域産業の成長や雇用の維持拡大などの経済効果を生み出していきます。

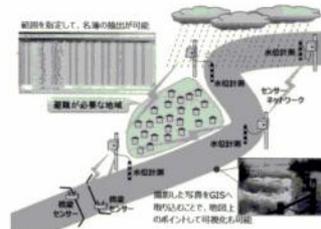


「スマートシティ AiCT」
2019年4月開所

「まちを見える化」し、まちづくりに役立てていきます

まちの見える化

本市では、どこに住民が住んでいるのかを地図上に表示し、それを分析することでバス運行路線を最適化するような取組を進めてきました。また、河川や水路などにセンサーを設置し、そこから取得したデータを活用すれば、地図上に水害予測や安全な避難経路を示すことなども可能になります。このように様々な情報から「まちを見える化」し、市民サービスの向上やまちづくりに活かしていきます。



住民の居住地を地図上で管理しているため、将来、センサーネットワークなどが構築されれば、防災対策等に役立てていくことが可能

「地方創生」の取組との連動

「第2期会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの柱

本市では、「スマートシティ会津若松」と「地方創生」が連動した取組を進めることで、人口減少への歯止めと、住み続けられるまちづくりを進めていきます。

目指す姿	魅力的なしごとの創出・雇用の拡大	安全・安心なまち	更なる生活の利便性向上
------	------------------	----------	-------------

<p>柱1</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTと既存産業・資源を 活用したしごとづくり 	<p>柱2</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の個性を活かした 新たなひとの流れの創出 	<p>柱3</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の利便性を実感できる 安全・安心なまちづくり 	<p>柱4</p> <ul style="list-style-type: none"> 結婚・出産・子育て支 援と教育環境の整備
---	--	--	--

「スマートシティ会津若松」の取組の一例をご紹介します。



ICTで暮らしを便利に！ ～ 生活の利便性を高める取組 ～

会津若松+(プラス) ～ 知りたいことに応じて情報が届く ～

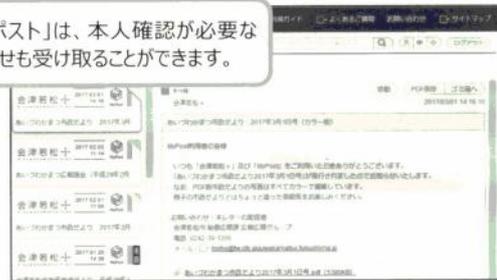
- ・「会津若松+」は、年齢や性別、家族構成、趣味などを登録すれば、「おすすめ」情報が優先的に表示されるホームページです。(例えば、子育て世代の方には、子ども向け情報が目立つ位置に表示されます。)
- ・地元の新聞記事などの地域情報も一体的に提供しています。
- ・日本郵便と連携し、インターネット上の郵便受けとなる「マイポスト」のサービスも実施しています。
- ・「マイポスト」は、厳格な個人認証を行っているため、これまでの電子メールとは異なり、本人確認が必要なお知らせも受け取ることができます。
- ・「会津若松+」は、ここを開けば様々なサービスの利用ができる玄関口となるようなホームページを目指しています。今後も生活の利便性を高めるようなサービスの追加を検討していきます。



除雪車の運行状況をリアルタイムに表示する「除雪車ナビ」や学校からの情報をお知らせする「あいづっこ+」など、様々なサービスと連携しています。(今後も様々なサービスの提供を検討)

個人の登録内容に応じて、「おすすめ」の情報を優先して表示

「マイポスト」は、本人確認が必要なお知らせも受け取ることができます。



会津若松+ 連携サービス

除雪車ナビ



- ・冬季には、市内の除雪車（約270台）の位置情報を公開しています。
- ・「除雪車ナビ」は、「LINEでチャット問い合わせサービス」からもアクセスすることができます。

会津若松+ 連携サービス

AIによる問い合わせ応答



- ・ソーシャル・ネットワーキング・サービスのLINEを活用して、AIが「休日当番医」や「ごみの出し方」、「除雪車の位置情報」、「市の担当窓口はどこ?」などの簡易な問い合わせに24時間、365日お答えします。

※ID「@mushkunchat」で友だち検索から追加もできます

会津若松+ 連携サービス

申請書作成支援サービス



- ・市に提出が必要な申請書類の一部について、パソコンやスマートフォンを使って指定の項目を入力することで、複数の書類を一度に作成することができます。(作成した申請書類は、ご自宅等で印刷してご持参ください。)

～ たくさんの世代が恩恵を受けられるまちづくり ～

Smart City Aizuwakamatsu

母子健康手帳の電子化 ～ ICT の活用で、出産・子育てをサポート ～

会津若松十 連携
AIZUWAKAMATSU PLUS サービス

・市の母子健康手帳の電子化サービスは、市で受けた乳幼児健診の記録や、予防接種の記録がデータ連携により自動反映し、スマートフォンなどで見ることができます。

・市からの子育て情報が届くほか、共有機能を使用すれば、ご家族などでお子様の成長の記録を見ることができます。



冊子版の「母子健康手帳」と併用してご利用いただくサービスです。

あいづっこ+ (プラス) ～ 学校と家庭をつなぐ情報配信アプリケーション ～

会津若松十 連携
AIZUWAKAMATSU PLUS サービス

・あいづっこ+は、子どもたちの学校での出来事がトピックスページで「日誌」としてタイムリーに配信されます。

・学校だよりなどが PDF で届くので、確認したいことをいつでもスマートフォンなどで見ることができます。

・学校での出来事が画像付きで配信されるので、アプリのアルバムに保存することができます。



オンライン診療 ～ 医療も便利に ～



- ・タブレット端末などを使って、通院の難しい患者さんを対象に、在宅のまま診察できる取組が実証事業として行われています。
- ・通院にかかる身体的・経済的負担を軽減したり、普段の生活している自宅などでの表情を把握できたりするなどの効果が期待できます。

みなとチャンネル ～ 中山間地域生活支援 ～



- ・「みなとチャンネル」は、家庭のテレビに専用の機器を接続することで、インターネットを通じて地域の情報を見ることができます。
- ・地域内の移動やバス停までの移動用として、電気自動車を活用した「みなとバス」の運行状況の確認や予約をすることもできます。
- ・「みなとチャンネル」に掲載されている情報は、地域の皆さんが日常の出来事を発信しています。

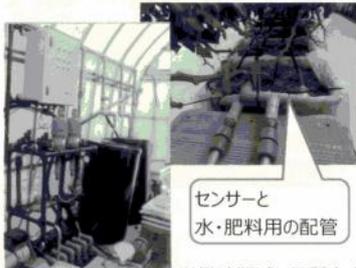
ICT で地域の産業を元気に！ ～「しごと」づくりの取組～

スマートアグリ ～農業にデータ分析と ICT を活用し、効率を向上～

農業振興

・農業分野では、ICT や IoT(センサーなど)、収集されたデータを分析し、活用する取組も進めています。

養液土耕システム



センサーと水・肥料用の配管

センサーで土中の水分量、温度、肥料濃度などを測定し、AI やタブレット端末などで設定した最適な水分と肥料を自動で供給します。

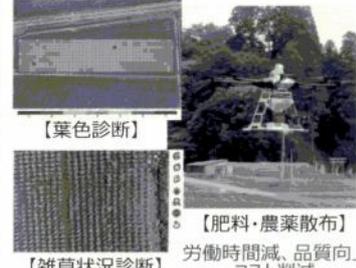
水田水管理システム



労働時間減

設定された水位になるように、自動で給水します。タブレット端末などで、水田ごとの水位や水温が確認できます。

栽培支援ドローン



【葉色診断】

【肥料・農薬散布】

【雑草状況診断】

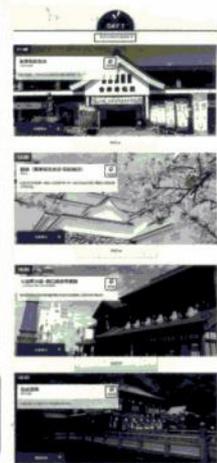
労働時間減、品質向上、コスト削減
「生育診断用」と「散布用」の2種類のドローンにより、水稻や大豆の生育状況の診断や肥料・農薬の散布を行っています。

VISIT AIZU (ビジット アイツ) ～外国人の国籍に応じて会津の魅力を発信～

観光振興

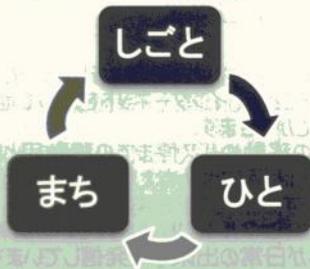
・観光分野では、外国人の国籍などに合わせて「おすすめ」の観光情報を表示するホームページ「VISIT AIZU」を開設し、効果的に会津の情報を周知することで、誘客拡大につなげています。

・この他にも様々な手段で観光誘客を進めることで地域の消費を拡大し、地域の活性化を図っていきます。



薙刀や剣道等のサムライ文化体験も紹介

言語や国籍、訪れる時期を選択することで、好みに合わせた観光情報が、優先して表示されます。



アナリティクス産業を含めた ICT 関連産業の集流は、「しごと」の創出が「ひと」を呼び、「ひと」が集他の産業への波及効果を含め、「まち」全体の活性

～ ICT 関連産業の集積を目指して ～

Smart City Aizuwakamatsu

「スマートシティ AiCT」 ～先端 ICT 関連企業の集積 (新たなしごとづくり) ～ **企業誘致**

- ・ICT 関連企業の集積により、首都圏からの新たな人の流れと雇用の場の創出、若年層の地元定着を図り、地域の活性化に努めていくため、首都圏と同様のオフィス環境に加え、セキュリティや災害時の事業継続性に配慮した 500 人規模の入居が可能な ICT オフィスビルを整備しています。
- ・ここを中心に、ひと・しごと・データが集まる「まち」として、ICT 関連企業が集い、つながる場となるよう、エリアの総称を「スマートシティ AiCT (アイクト)」と名付けました。

「スマートシティ AiCT」 2019 年 4 月開所

オフィス棟 (約 500 名規模)

・首都圏等からの一部機能移転、高付加価値部門などの ICT 関連企業の入居スペース

交流棟

・オフィス入居者や住民が利用できるパブリックスペース。



オフィス棟内
サロン・ラウンジ



入居企業 × 会津大学 × 地元企業 × 地域住民 により、オープンイノベーションを加速
+地域活性化 +交流・定住人口の増加 ⇒ 地域課題解決モデルの創出

サテライトオフィス誘致事業 ～移転を検討する企業に試行の場を提供～ **企業誘致**

- ・地方への移転を検討しているなど一定の条件を満たす企業や個人の方を対象として、試行的に利用をいただけるサテライトオフィスを 3 か所 整備しています。



・市長公舎サテライトオフィス (職住一体型)



・行仁町サテライトオフィス (高セキュリティ型)



・旧黒河内医院サテライトオフィス



企業等の本拠地から離れた場所で仕事をする「サテライトオフィス」

積によって生み出される新たな「しごと」と「雇用」、「交流人口」の増加といった
まることでまた新たな「しごと」が増えるといった好循環を生み出していきものであり、
化につながっていくものです。

様々な分野で「スマートシティ会津若松」を推進

このパンフレットで紹介している取組のほかにも、様々な分野で取組を進めています。

人材育成	会津大学と連携したアナリティクス・セキュリティ人材育成 情報処理技術者試験等を活用した市内の人材育成・確保 AOI (Aizu Open Innovation) 会議 / CODE for AIZU
しごとづくり	サテライトオフィスの運営 / ふるさとテレワーク事業 ICT オフィス環境整備 (500 人規模のオフィスビル整備)
ソフト基盤	オープンデータ基盤構築 (Data for Citizen) 閲覧者の属性に合わせた情報プッシュ型ホームページの構築 (会津若松+) テレビを活用した行政・地域情報配信サービス (みなとチャンネル) データセンターを活用したクラウド型のシステム運用
交通	公用車走行情報収集 データ分析に基づくバス路線の最適化 / スマートバス停 (民間) / オンデマンドバス
行政	タブレット活用型窓口業務システム / タッチパネルでの窓口受付サービス LINE と AI チャットボットを活用した問い合わせへの自動応答サービス GIS 基盤構築 + 全住民の居住地を地図上で管理 (日次更新) 除雪車位置情報システム / 地域密着型コミュニケーションサービス「あいばあ」 情報交流支援アプリ「へこミン」
医療	遠隔診療 (オンライン診療) の推進 / AI による虐待等の早期発見 (実証) スマートウォッチやセンサーを活用した IoT ヘルスケア (実証) 母子健康手帳の電子化「母子健康情報サービス」
エネルギー	木質バイオマス発電所 (民間) / 風力発電所 (民間) / メガソーラー発電所 (民間) H E M S / デマンドレスポンス / B E M S 電気自動車公用車の蓄電池としての活用
農業	スマートアグリ (養液土耕システム / 水田の水管理システム) ドローンによる生育管理 / 植物工場 (民間)
教育	タブレット活用型教育支援システム / 電子黒板 / 学校情報の配信サービス「あいつっこ+」 / デジタル未来アート
観光	レコメンド型観光サイト (デジタル DMO) / ICT おもてなし Wi-Fi データ分析に基づく観光プロモーション
商工	5 G 通信を活用した日本酒の製造・流通管理 (実証) / まちなか Wi-Fi 会津 IT 産業振興協議会 / IT 関係特許相談窓口
防災	J アラートとも連携した防災情報メール配信 GIS を活用した災害対策 / 水位センサーを活用した災害対策 (実証)

ICTは、手段・道具（ツール）として、様々な分野で活用できるものです。



様々な分野で ICT を手段・道具として活用し、安全・安心で、利便性が高く暮らしやすいまち、住み続けられるまちを創っていきます。

様々な分野で波及効果を生み出していきます。

市や会津大学、地域の事業者、AICT 入居企業のほか、地域外の企業や団体などの多様な主体が連携しながら、様々な分野で波及効果を生み出し、交流人口等の拡大や人口減少への歯止めにつながるよう取組を進めていきます。

会津若松市の概要



地理

・東京から約 300km、磐梯山や猪苗代湖などの豊かな自然に恵まれたまち。

産業

・鶴ヶ城や飯盛山などの史跡・名所や、東山・芦ノ牧などの温泉地も有する観光地。
・電子デバイス・精密機械・非鉄金属産業などの高い技術を擁する企業が多く立地しているほか、会津清酒、会津漆器等の地場産業、稲作を中心とした農業も盛ん。

ICT 専門大学である会津大学

・コンピュータ理工学の専門的知識と英語教育により、グローバルに通用する人材を育成。

現住人口 : 119,365 人 世帯数 : 50,171 世帯 面積 : 約 383 km²
高齢化率 : 31.3% (令和 2 年 2 月 1 日現在)

■問い合わせ 会津若松市 企画政策部 企画調整課
〒965-8601 福島県会津若松市東栄町 3 番 46 号
電話 : 0242-39-1201 FAX : 0242-39-1400
E-mail : kikaku@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp